

# 精神障がい

障がい別に過去の配慮例を紹介します。

※授業においては、科目特性に応じて学生本人と教員が話し合い、ともに着地点を見つけましょう。

## 1. 概要

精神疾患は継続的に日常や社会生活全般に支障がある。

症状やその強さは時間経過や環境によって変化し、支障に調整が必要となる。医療との連携が基本となるため、主治医からの提案を参考にする。

## 2. 講義（座学）における配慮例

- ・希望する座席での着席を認める。
- ・イヤーマフ、耳栓、サングラス等の装着を認める。
- ・必要に応じて授業中の退出を認める。
- ・その他、授業科目の目的等を変更することのない範囲で環境の調整を行う。

## 3. 実技授業における配慮例

- ・オリエンテーション等で時間をかけて説明を行なう。
- ・その他、学生本人がどの程度の動きが可能か、その都度確認しあう。